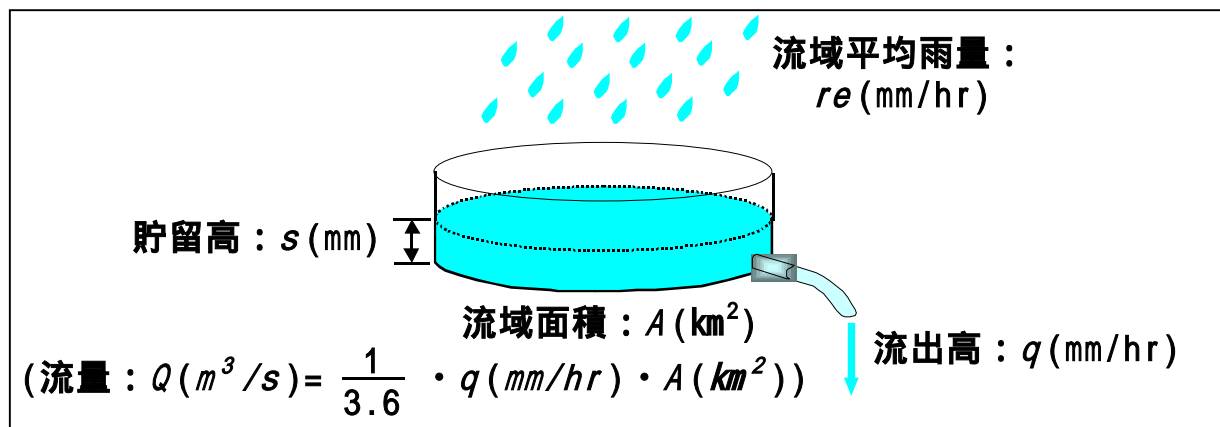


洪水流出モデル

降雨量から主要地点の流量を算出するための計算システムが洪水流出モデルです。洪水流出モデルは、「斜面流出モデル」と「河道追跡モデル」から構成されます。

「斜面流出モデル」とは、流域に降った雨が川に出てくるまでの現象を再現するためのモデルです。

「河道追跡モデル」とは、川に出てきた水が集まり、洪水となって下流へ流れていく現象を再現するためのモデルです。



流域をタンクに見立てた場合、タンクに降った雨は、一部が貯留量としてタンクに一時的に貯留され、貯留量に応じた流量がタンクから流出し河川流量となります。また、斜面に降った雨の内流域内に貯留される量(貯留高： s (mm))と、流出量(流出量： q (mm/hr))との間には一定の関係があることが一般的に認められています。

このような考えに立った洪水流出モデルとして、吉野川では、日本全国でも一般的に採用されている、「貯留関数法」により検討を進めています。